

大阪の街を元気に!



第7回 大阪アジア映画祭

OSAKA ASIAN FILM FESTIVAL 2012

特別フォーラム

Special Forum

「関西発の映画とスクリーンツーリズム」

Screen Tourism and Films from Kansai

共催:大阪歴史博物館、大阪観光コンベンション協会(大阪フィルム・カウンシル)

2011年は、関西を舞台にした2つの映画『プリンセス トヨトミ』と『阪急電車 片道15分の奇跡』が映画界で大きな話題となりました。興行的にも大成功となったこれらの作品について、フィルムコミッションとしての立場で協力された大阪フィルム・カウンシルの大野聡さん、神戸フィルムオフィスの田中まこさんのおふたりにご報告いただくとともに、映画を公開することで産業的にどのような波及効果があったか、また観光客の増員に貢献したかなど、スクリーンツーリズムについて考え、今後の映画誘致へ向けての取り組みを話し合います。また、OAFF2012オープニング作品で日韓の映画人が協力し製作された『道～白磁の人～』の高橋伴明監督にお越しいただき、海外での映画製作、また映画の製作支援についてもお話しいただきます。司会は、ジャパン・フィルムコミッション理事長の寺脇研さんです。

3/16(金) pm.2:00～ (終了予定pm.4:00)

入場無料 会場:大阪歴史博物館4階講堂



Forum 1

パネラー

高橋伴明さん Banmei Takahashi
(『道～白磁の人～』監督、京都造形芸術大学教授)

田中まこさん Mako Tanaka
(神戸フィルムオフィス代表、ひょうごロケ支援Net会長)

大野聡さん Satoshi Oono
(大阪観光コンベンション協会 大阪フィルム・カウンシル)

司会

寺脇研さん Ken Terawaki
(ジャパン・フィルムコミッション理事長、京都造形芸術大学教授)



『道～白磁の人～』



『プリンセス トヨトミ』



『阪急電車 片道15分の奇跡』

Forum 2

映画館のデジタル設備導入に関して —VPF導入とデジタル映画の今後—

映画はどうなるのか……



映画のデジタル化における映画上映を考える

映画のデジタル化(DCP)が進む中、フィルムが消えようとしている。すでに世界の大半はDCPがフィルムにとって変わり、映画祭の上映においてもDCPでの上映が主流になりつつある。デジタル化は静かに進んでいるが、それはフィルムが消え、デジタル化に対応できない映画館の閉館も意味している。映画館はこれからどうなるのか、また映画祭はどう変わっていくのか、デジタル化における映画上映を考える。

- ①映画館のデジタル化とは……映像・音響データを取り込むサーバーとそれをスクリーン映すDLP(専用プロジェクター)、およびそれに付随する音響、電機設備を設置し、DCI規定に則ったデジタル・データによる上映を可能にする設備を導入することを指す。
- ②DCI規定とは……映画のデジタル・データの統一フォーマット。ハリウッド9社が設立したDigital Cinema Initiative LLCが策定した映画のマスター制作、配給、上映のための技術要求規格。ハリウッド・ローカルの規定に過ぎなかったDCI規定が、米国内規格になり、現在は全世界の映画館で採用。いまや、世界の映画館から35ミリフィルムが消え、デジタル上映に変わっている。
- ③DCPとは……デジタル上映をするためには映画作品をデジタル・データ化した素材がDCP(Digital Cinema Package)である。そのDCPを上映するためには一種のパスワード=KDM(Key Delivery Message)が必要である。
- ④VPFスキームとは……VPF=Virtual Print Fee(仮想のプリント経費)の略。高額なデジタル設備費を劇場だけが負担するのではなく、配給会社も応分の負担をするためにアメリカで始まった金融スキーム。各VPFサービスにより多少の差はあるが、概ね上記設備導入費の1/3を映画館が、2/3を配給会社が負担するという費用負担比率になっている。

3/15(木) pm.1:00～ (終了予定pm.2:30)

入場無料 会場:大阪歴史博物館4階講堂

協力:
(社)コミュニティシネマセンター

●会場●大阪歴史博物館4階講堂 TEL.06-6946-5728
(地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目駅」9号出口前・NHK大阪放送会館隣)

料金:無料

◎主催:大阪映像文化振興事業実行委員会(大阪アジア映画祭)
◎お問合せ:大阪アジア映画祭 運営事務局 tel.06-6373-1225

